

# k相模川流域周辺における千年村町字の分布特性と地形立地に関する研究

永井朝樹 \* 金盛晋也 \* ○近藤真 \* 小島侑李子 \*  
橋本慧 \*\* 相原雄太 \*\* 木下剛 \*\*

## 1. 研究背景・目的

### 1) 千年村について

千年村とは、古くから地形・地質といった集落の基盤としての「環境」と、それに適応する集落の「構造」、また、そこに展開される「共同体」が三位一体となり、度重なる自然的社会的災害・変化を乗り越えて、生産と生活が持続的に営まれてきた集落・地域のことを指す<sup>1)</sup>。

### 2) 千年村の特定方法

古代より続く集落を特定する方法として、角川日本地名大辞典から平安時代の古代律令制における行政区画である国・郡・郷の名称を網羅した和名類聚抄に記載されている地名を抽出した。また、抽出された記載地名をさらに角川日本地名の地名編で検索し、現在における単一または複数の町字に比定される区域（以下、千年村町字）を特定した。この方法は早稲田大学建築史学研究室中谷礼仁らの研究グループが考案したものである。

### 3) 研究目的

相模川流域の特徴として関東地方の他の一級河川流域と比較すると、山から海までの距離が短く多様な地形が密集していることが挙げられる。また千年村町字の分布を見ると相模川流域周辺に特に密集の度合いが顕著な地域が認められる。（図-1）。そこで相模川流域周辺に位置する17件の千年村町字を対象として、地形別の構成割合をもとに千年村町字を類型化し、併せて水系及び旧街道との位置関係について分析を行うことを目的とした。特に低地や臨海部といった洪水や津波等の水害のリスクが大きいと思われる地域における千年村町字の立地の妥当性を考察した。

## 2. 研究方法

ArcGISを用いて地形分類図<sup>2)</sup>をもとに17件の域内のそれぞれの地形が占める割合を算出し、その結果をもとに地形による千年村町字の類型化を行うとともに町字と水系<sup>3)</sup>及び旧街道<sup>4)</sup>との位置関係を分析した。

## 3. 結果

各千年村町字の面積に対する地形類型の面積割合をもとに①山地型、②台地-低地境界型、③低地型、④臨海型、⑤その他の5つのパターンに類型化できた（図-2、表

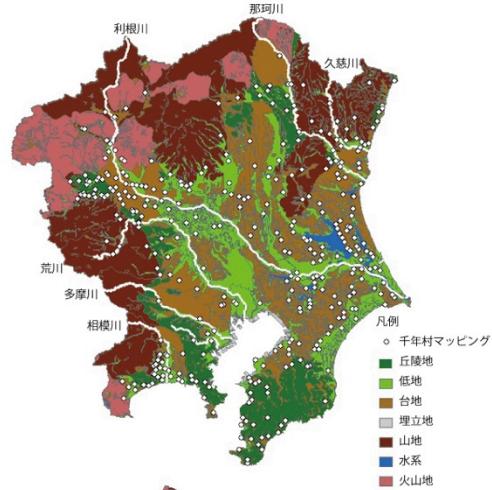


図-1 関東地方における千年村町字の分布と一級河川

-1）。まず全ての千年村町字が2種類以上の地形から構成されていることがわかった。また17件中14件に街道が通り、全ての町字が河川を含む、または相模川本流と接するという結果が得られた（図-3）。①山地型は60%以上が山地及び台地で構成されているとともにある程度の低地も含む（印山郷、玉川郷、日田郷）。②台地-低地境界型は40%以上の低地を含み砂礫台地の割合も大きい。また自然堤防・砂州・砂丘を含む場合と含まない場合が見られる（櫛橋郷、大服郷、片岡郷、渭部郷、金目郷）。③低地型は80%以上が三角州性低地及び自然堤防・砂州・砂丘で構成されており、低地の割合が非常に大きい（大上郷、前取郷、川相郷、寒川郷、川会郷）。④臨海型は自然堤防・砂州・砂丘の占める割合が大きく丘陵地と扇状地性低地も含む（余綾郷、霜見郷、磯長郷）。⑤その他に含まれる英那郷は、山地型の印山郷と玉川郷に挟まれているが山地を含まず、他に同等の傾向を示す町字もない。そこで英那郷は地形条件よりも街道の位置が集落立地に関係しているものと考えられた。

## 4. 考察

全ての千年村町字が2種類以上の多様な地形から構成されていること、また水系や旧街道を含むことから、多様な要素の重なる地域に千年村町字が分布する傾向が見られ、さらにそれら要素が密集していることが相模川流域周辺に千年村を密集させる一因となっていると考えられる。また一見水害のリスクが大きいと思われる低地型と臨海型であるが、自然堤防・砂州・砂丘といった周辺地域より比較的標高が高い地域を一定量含んでいることにより水害に対して防災性を持つと推察される。このことから地形的には相模川流域周辺の低地に立地していることはある程度妥当性があると言えるのではないか。

\*千葉大学園芸学部 \*\*千葉大学大学院園芸学研究科

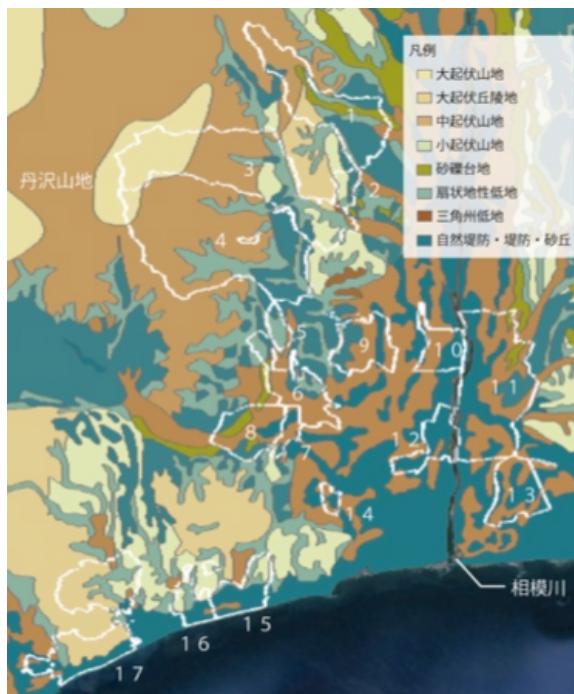


図-2 千年村町字と土地分類図

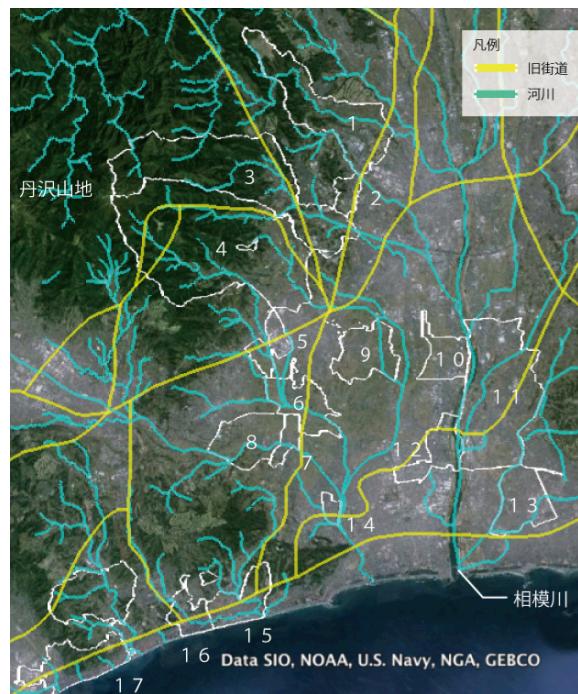


図-3 千年村町字と水系及び街道

表-1 千年村町字ごとの面積に対してそれぞれの地形が占める割合 (%)

	郷名	地形分類							
		大起伏山地	大起伏丘陵地	中起伏山地	小起伏山地	砂礫台地	扇状地性低地	三角州低地	自然堤防・砂州・砂丘
①山地型	1 印山郷	8.73	29.05	43.16	16.33	2.73			
	3 玉川郷	26.64	3.3	33.07	12.89	6.17	16.55	0.89	
	4 日田郷	3.62		60.57	0.12	15.33	20.32		
②台地-低地 境界型	5 榎橋郷				24.56	64.56	10.88		
	6 大服郷				22.89	11.46	64.95	0.68	
	7 片岡郷				7.72	10.96	0.53	53.92	26.84
	8 金目郷				0.14	41.83	2.33	45.45	10.23
	9 渥部郷					26.57	4.05	54.55	14.84
③低地型	10 大上郷					13.41		53.79	45.57
	11 寒川郷							46.16	36.64
	12 前取郷							12.64	75.79
	13 河会郷							47.2	52.8
	14 川相郷							59.81	40.19
④臨海型	15 余綾郷				18.87	20.4	8.59	52.15	
	16 霜見郷				32.4	21.07	5.6	40.96	
	17 磯長郷	47.73			9.23	17.18	4.98		20.88
⑤その他	2 英那郷		7.5	40.96	25.07	23.48	1.6		

## 5.まとめ・今後の展望

本研究では相模川流域周辺における17件の千年村町字の地形別の構成割合をもとに4つのパターンに類型化することができた。しかしこの結果をもって一般解とすることはできない。より一般性を高めるために他流域に立地する千年村町字においてさらに検証を進めなければならぬ。また地形、水系及び旧街道から千年村の立地特性を明らかにしたが、より細やかに類型化するために神社仏閣などの宗教活動を含んだ「共同体」の要素も取り入れる必要がある。

## 6.補注及び引用文献

- 1) 千年村プロジェクト  
<http://mille-vill.org/>
- 2) 国土交通省国土政策局国土情報課  
50万分の1土地分類基本調査  
<http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download/index.html>
- 3) 国土交通省国土政策局国土情報課国土数値情報  
ダウンロードサービス 河川データ  
<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-W05.html>
- 4) 関東地方整備局 横浜国道事務所ホームページ  
<http://www.ktr.mlit.go.jp/yokohama/index.htm>

凡例	
■	最も高い
■	2番目に高い
■	3番目に高い